

MF-TOKYO 2025

第8回 プレス・板金・フォーミング展

鍛圧機械に関する国際展示会「MF-TOKYO 2025 第8回プレス・板金・フォーミング展」が7月16日から19日まで東京ビッグサイトで開催され、4日間で3万人以上が来場しました。学生を対象としたバスツアーも開催され、1,500人を超える学生が参加しました。日刊工業新聞社では初めての試みとして、学生に協賛出展者取材し、企業の魅力やイベントの感想をレポートにしてもらう「学生記者」企画を行いました。ここでは、優秀なレポートを一部、紹介します。（vol.2は9月23日に掲載）

学生記者が 体感した 展示会

vol.1

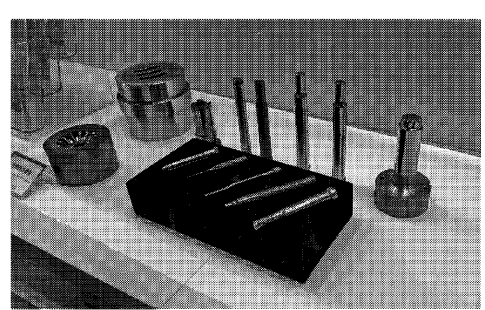


機子工業高等学校 機械科 1年 おはようさん

取材先：富士ダイス

日本の技術の集大成

私がMF-TOKYOで印象に残っている会社は富士ダイスだ。なぜかという、工具は超合金化することでより精密な寸法精度になり、表面状態が良くなって製品の外観が良くなるだけでなく、寿命が長くなり、メンテナンス回数が減少することによって稼働効率を高くすることができるからだ。私は超合金で作られる工具のメリットを知り、感心した。今回私はMF-TOKYOに来て、鑄造からレーザー加工まで、様々な幅広い技術がある知り、それぞれの役目にとっても関心を持った。今後こういった業界が自分のような、機械やものづくりが最初から好きな人ではなく、一般の様々な人達からも興味を持たれ、もっとものづくりなどが好きな人が増えて欲しい。



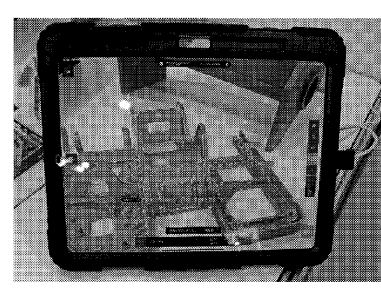
主に冷間鍛造に用いられる金型

機子工業高等学校 機械科 1年 渡邊友介さん

海外と日本がつなぐ未来の工業

トミタは様々な事業を行っている会社で、工業に関しては機械の品質をより良くする製品や、技術が必要な作業をより簡易的に行えるようにする製品の輸入販売を行っています。輸入品としてはドイツ企業が開発した世界初の可動部品がなくても揺動する流体を生成できるジェットノズルや、拡張現実（AR）を使って3DCADと製品を照らし合わせて品質検査が簡単にできるアプリなどがありました。トミタは今後の工業を海外と日本を結んでより豊かにする会社だと分かりました。MF-TOKYOでは日常では見られないような板金加工や接合する機械、これからの工業を支えてくれそうな見慣れない部品が沢山あり、とても心が踊りました。まだ工業の知識は浅いので凄いいという感想しか出ませんでした、もっと知識がついてから参加するとまた違った視点から見ることができそうです。

取材先：トミタ



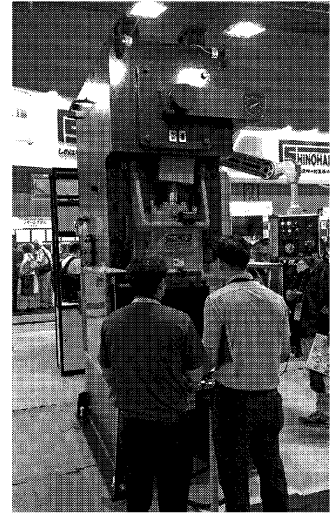
ARで3DCADと部品を照らし合わせている様子

取材先：しのはらプレスサービス

機子工業高等学校 機械科 2年 joさん

工業系企業はどう生きるか

今回、僕はしのはらプレスサービスに取材を行った。ブースに行くくと最初に気になったのは3台並んでいるプレス機だった。僕はスタッフの方にこのプレス機について聞いた。なんとそのプレス機は30年ほど前に製造されたものを改修した物であった。スタッフの方によると、制御装置などの部品を新しいものに差し替えるだけで、最新のプレス機にも迫る性能を引き出すことができるそう。隣にはロボットが展示されており、なるべく簡単な仕事をロボットに任せ、難しいことを人の手でやり、作業を分担することによって作業効率化を図ると同時に人手不足に対する対策にもなっていた。同社のこういった問題に取り組んでいく姿勢に僕は魅力を感じた。



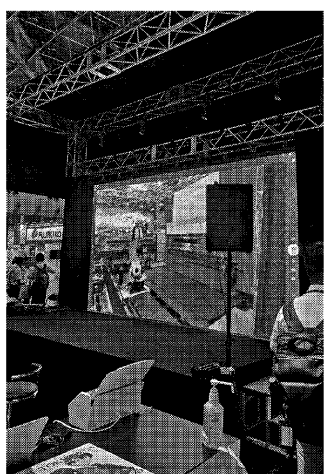
30年前に作られたプレス機

取材先：吉野機械製作所

機子工業高等学校 機械科 2年 内田海心人さん

機械に特化したAI

今回取材をさせていただいた会社は吉野機械製作所さんです。機械の状況を確認するだけでなく、その機械が何をできるのかを詳しく教えたり、素人にもわかりやすいように説明したりするAIを開発しています。このAIを使うことにより新人教育をよりスムーズに行えるようになり、機械に何かあったときなどにも迅速な対応ができるので、より仕事の効率が上がるとのこと、良い開発だと思いました。他にもVRを使った機械の中を見られる面白い設備もありました。



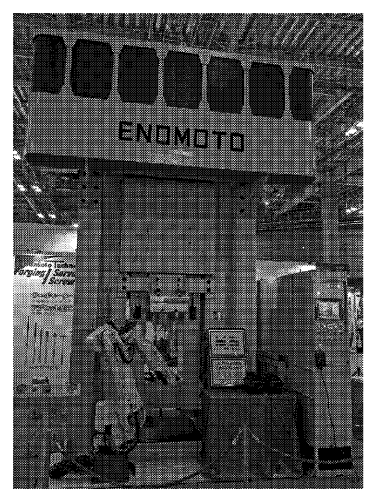
モニターで企業の魅力を説明していた

取材先：榎本機工

神奈川工業高等学校（全日制） 機械科 1年 クヌギさん

大から小まで、プレス機で

今回のMF-TOKYOに参加していらしゃった沢山の企業の中でも、特に私が目を引かれた榎本機工さんの魅力を紹介します。目を引かれた1番の理由は、展示ブースに大きなプレス機があったからです。私の3倍以上も高さがありそうな機械で、プレスする力は約300トンもあるそうです。オスのアフリカ象が平均6トンだと言われているので、比べると圧力の力がいかに圧倒的か分かります。ですが、なんとこのプレス機も業界の中では小さい方らしく、大きな物だとこの6倍以上もある2,000トンの物もあるそうです。さらに、榎本機工さんでは大きな部品から、メダルのような細かい装飾が入ったものまで作られています。大から小まで作れてしまう、プレス業界の榎本機工さん。皆様も興味湧いたのなら、是非一度調べてみてはいかがでしょうか。



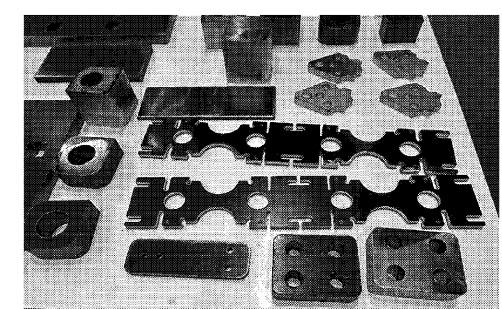
ブースにあったプレス機。現場では実際に動かしてプレスの過程を見せてくれました

取材先：オーセンテック

木更津工業高等専門学校 機械工学科 3年 深澤綾音さん

人手不足という課題に対して

手作業でバリ取り作業をするのは、人も時間も足りない。今、社会では少子高齢化が進む中で、人手不足は製造業全体の課題になっている。オーセンテックでは、バリ取り機や、バリ取りした製品を洗浄機へコンベヤで運ぶ装置を手がけており、作業の自動化と効率化を推進している。これにより、従来は人手に頼っていた作業を機械化し、作業員の負担を軽減すると同時に、生産スピードと品質の安定化を可能とする。また、コンベヤにより加工品を洗浄機に運ぶことで、製作過程でついた油を触って、手が汚れることなく、油汚れを洗浄、乾燥し、次工程への受け渡しまでを行うことができる。ヒューマンエラーの削減や、作業環境の改善にもつながっている。人手不足が深刻化する中で、「人がやるべき仕事」と「機械に任せるべき仕事」を明確に分け、生産現場のスマート化を推進する点について改めて考えることができた。



バリ取り機でバリ取り加工した製品

神奈川工業高等学校（定時制） 建設科 3年 おもちさん

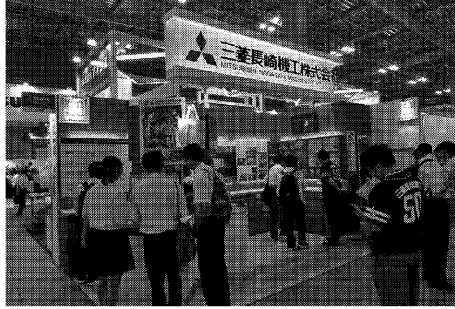
長い歴史を持つ会社の築きたい未来

今回取材した三菱長崎機工は再生可能エネルギーの普及への貢献や省エネルギー化を実現するための産業設備の開発を行っている。キャッチコピーである「確かな技術で、未来を築く」の未来とはどんなものかをブースの方に聞いたところ、「日本は昔から世界の中心でものをつくり続けたからこそ、これからも世界で求められる技術でメイド・イン・ジャパンプランドを世界中に広めていきたいです」と話した。今回取材をしていて世界だけを見ているのではなく、しっかりと従業員に寄り添っている姿も見え、信頼の置ける会社だと感じた。

取材先：三菱長崎機工



国内で唯一、独創的進化型リングローリングミルを所有



会場での学生記者



MF-TOKYO 2025への沢山のご来場をありがとうございました！

次回は2027年開催予定です。

展示会ダイジェスト動画
出展者インタビュー公開中！



学生記者企画に関するお問い合わせ

展示会に関するお問い合わせ

日刊工業新聞社 業務局総合企画部
k-info@media.nikkan.co.jp

MF-TOKYO運営事務局（日刊工業新聞社内 第一イベント事業部内）
mftokyo@nikkan.tech